

## 猫の発情

猫は犬など他の動物に比べると極めて特異的な発情行動をする動物です。繁殖は、犬と猫ではそのプロセスがまったく違うことを覚えておいてください。特に猫の排卵は交尾排卵というシステムで行われます。

### 発情の時期

猫の場合、通常早ければ生後4ヵ月程度で性成熟の時期を迎え、遅くとも1年程度までにその時期を向かえます。ただし、これは生まれた季節や猫の種類によっても多少異なり、特にペルシャやヒマラヤンなどの種類は性成熟に達するまでに1年半程度かかるものもいます。また、種類にもよりますが、通常雌が雄よりも早く性成熟をむかえるようです。

猫の発情時期は北半球では1月下旬から9月までが主ですが、室内飼育であると1年中発情がおこることがあります。これは日照時間との関係があるようで、1日14時間以上光をあびると発情が可能であることが解っています。

### ♀ 雌の発情サイクル

雌の場合、3～5日程度の発情前期と呼ばれる時期から発情が始まりますが、この時期を外見などから判断することは極めて難しく、一般的な発情行動は認められません。また雌猫は雄猫の交尾行動を受け入れません。

次に発情期が訪れます。この時期はだいたい3～10日程度で。雄猫がそばにいるかどうかで変動します。発情期の雌猫は次のような特徴的な行動をとります。

独特な鳴き声を出す

何度も排尿行動をする

人に向けてオシリを高くあげたり、さするとゴロゴロする

外出時間が長くなる

しかし、この時期でも雌犬のような血様用分泌物の排せつは見られません。この後は、交尾が行われたか、妊娠したかによりかわります。まず、交尾が行われなかった場合は、発情休止期となり、発情シーズン中であれば1～2週間で再び発情前期を向かえます。交尾は行われたが、妊娠しなかった場合は、偽妊娠（想像妊娠）がおこり、約1月で発情シーズン中であれば再

び発情前期を向かえます。

### ♂ 雄の発情サイクル

雄猫の発情はきまったサイクルがあるわけではなく、雌のように交配が不可能な時期というものはありません。ですから、年間を通じて交尾が可能です。

### 繁殖について！

繁殖を行う場合には通常2回目の発情から、5～6歳程度までがよいとされています。また、遺伝的疾患がないか、血統書の確認、獣医師による健康診断や予防注射の有無など繁殖前に確認すべきことがらはその場で慌てないためにも、事前に行っておくようにしましょう。

猫は他の多くの動物と違って発情期に交尾することにより、それが刺激となり排卵します。通常発情の3日目に交尾を行うことが最も多いようです。

繁殖を望まないのであれば比較的早い時期に避妊あるいは去勢手術を行うことがよいとされています。雌猫であれば生殖器の病気の予防、雄猫も徘徊抑制や、攻撃性を低下させるための一手段としても行います。

### メモ

日本では、毎年多くの猫が不幸にして処分されています。これはモラルのない飼育者が適切に避妊手術や去勢手術を行わないことが最大の原因です。また、もしも望まない交配がおこった場合には早急に獣医師に連絡して対処を行えば妊娠、出産を防ぐこともできます。

最近では皮下に埋め込み式のインプラントと呼ばれるものでも発情や妊娠を防止できます。詳しくは主治医の先生にご相談下さい。

雌猫は膣の細胞を特殊な方法で調べることによりその発情のサイクルをすることもできます。



このページは下記当院のインターネットホームページで24時間無料で取り出せます。また、ホームページには他にも様々な情報が掲載してありますので、ぜひご覧ください。



Copyright (C) 2001 Tatsuya Fukuyama DVM, AFP IKI ISLAND VETERINARY CLINIC.  
Tel 0920-47-6767 Fax 0920-47-0350 e-mail: foffice@bronze.ocn.ne.jp  
<http://www.ikikoku.com/pet.html>